

フランス観光開発機構と討議

JATA役員会、パリ市とルーアン市も視察

JATA役員会は12月3日から8日までフランスを訪れ、パリ市とルーアン市を視察したほか、フランス観光開発機構との討議などを行いました。

7日にパリ市内のホテルで開催された同機構とのミーティングには、日本側からJATA役員と観光庁の瓦林康人審議官、日本航空と全日空のパリ支店長、JNTOパリ事務所長、在パリのツアオペレーターなどが出席。フランス側からは同機構のクリスチャン・マンティ総裁やフレデリック・マゼンタ在日代表をはじめ、パリ観光局、エールフランス、パリ空港公団などの関係者が参加しています。

ミーティングでは、フランス側からフランス観光開発機構との信頼関係に基づくJATAによる1年間の取り組みへの謝意



JATA 役員会とフランス観光開発機構によるミーティング

が表明されるとともに、訪仏外国人旅行者全体ではほぼ半年並みに回復する一方、日本人旅行者の回復が遅れていることなどが説明されました。

パリ市観光局によると、今年1月から9月までの日本人旅行者数は前年同期比46%減にとどまっているものの、同観光局としては、日本が非常に重要な市場であることから、需要回復に向けた努力を継続して

「韓国復活研修旅行」を実施 交流人口1000万人の早期達成を目指す

JATAは12月13日から15日までの3日間にわたって、韓国観光公社(KTO)と大韓航空の協力により「韓国復活研修旅行」を実施し、「釜山、蔚山、慶州コース」「平昌冬季オリンピックコース」「百済歴史コース」の3コース

に約150人が参加しました。

13日には、9月に発生した地震による風評被害の影響を受けている慶



「日韓観光交流の夕べ」で壇上に揃った日韓両国の関係者

おり、今年3月に開催されるランデブーフランスで日本からのバイヤー向けにルーアンでのワークショップも計画しています。

日本側からは、越智良典JATA事務局長がフランスへの旅行需要回復に向けたJATAの取り組みを説明し、第4四半期には前年対比で80%まで戻っていることを指摘。10月以降は、シア向けパッケージが好調に推移しており、2017年には教育マーケットも回復が期待されるという見通しを示しました。

また、田川博己JATA会長が日本市

場向けのアプローチとして「ネットでの情報収集は簡単だが、物語が作れるような情報が必要」と強調。「今こそ、新しい海外旅行をつくるチャンスであり、フランスは観光素材の宝庫であることから、商品造成担当の現場社員とコミュニケーションを重ねて欲しい」と要請しています。

これに対して、パリ市観光局のピエール・シヤピラ総裁は、「日本人の旅行スタイルが変化してきており、建築やライフスタイル、コスモポリタン、職人の街などをテーマにした素材を提供したい」と応じました。

を年間2000万人にするには、韓国への旅行者数も230万人から300万人、400万人へと増やしていかなければならない」と指摘し、「来年は『韓国旅行復活の年』にしたい」と決意を示しています。

州市で「日韓観光交流の夕べ」が開催され、日本側からは田川博己JATA会長、菊間潤吾JATA副会長、韓国側からは文化体育観光部の趙允旋長官、KTOの鄭昌洙社長、韓国旅行業協会(KATA)の梁武承会長ら

2020年には東京でオリンピックパラリンピックが開催されることに言及し、「両国のプレゼンスを高める良い機会であり、両国が協力して共同プロモーションを展開し、それぞれの観光発展に資する取り組みを進めるべきだ」と訴えました。

が出席し、日韓両国間における今後の交流拡大や年間交流人口1000万人の早期実現を目指すことなどが確認されています。

田川会長は「日本では災害が多く、風評被害の大変さは身にしみている。復興のために力になれるのが観光だ」と挨拶。「今回の研修旅行で得た情報をお客様にしっかりと伝えていくことが、1000万人の達成につながる」と強調しました。また、菊間副会長は「日本からの出国者数



「日韓観光交流の夕べ」で挨拶する田川JATA会長

志村理事長が旅行市場の現状を説明 在京アフリカ外交団月例会議で講演

JATAの志村格理事長は12月1日、東京・代沢のアンゴラ大使館で開かれた在京アフリカ外交団(ADC)の月例会議で、日本からアフリカへの旅行マーケットの現状についてプレゼンテーションを行いました。

ADCは、アフリカ54カ国中、日本に大使館を置いている34カ国の大使館関係者で構成されており、1カ月に1回の頻度で会議を開き、5つの委員会の報告や外部関係者による講演などを含むプログラムが実施されています。

志村理事長はプレゼンテーションで、日本人旅行者の特徴や日本での各国によるPR活動の成功事例などについて説明し、出席した大使館関係者に対してそれぞれの国を訪れる日本人旅行者数の増加に向けた取り組みを強化するよう要請しました。

会議に参加したADCのメンバー各国関係者も積極的に発言し、若年層の旅行者者層にいかにかアフリカのデスクティネーションへ呼び込むかといった課題や外務省による危険情報への対応方針などについて質問がありました。

また、ルワンダのウェネティア・アセブタンディ



アンゴラ大使館で開かれたADCの月例会議

大使は、「ADCメンバーを中心にアフリカ全体が共同でデスクティネーションのPRを展開し、ツーリズムEXPOジャパンにも参加して旅行業界や一般旅行者にアピールしていく」という前向きな提案を行っています。

アフリカからはエジプトやチュニジア、ボツワナなどがツーリズムEXPOジャパンへの常連出展国となっているほか、南部アフリカ地域観光機構(RETOSA)がアフリカ南部地域の15カ国による共同出展を行うなど、様々な形で出展の工夫が凝らされている一方で、業界にとつて未開発の国々も多く、今後ADCの参加が大いに期待されます。

2015年前後に感染が拡大したエボラ出血熱や一部地域でのイスラム国(ISIS)による活動の影響などから、旅行需要の減少を余儀なくされたアフリカ地域も、2016年から復活の兆しをみせており、今後、ADCと旅行業界との連携による様々な取り組みが進むことも期待されると思います。

北海道支部

1月6日 観光業界新年交礼会。

東北支部

12月13日 幹事会・定例会。

関東支部

12月2日 インバウンド委員会。

12月6日 LADY JATA委員会。
12月8日 海外旅行委員会。

中部支部

12月15日~17日 国内販促研修「石垣島ラブメッドカピラ&八重山諸島」。
1月6日 福井地区委員会「新年賀詞交歓会」。

関西支部

1月5日 幹事会。
1月5日 年賀会。

中四国支部

12月5日 第2回海外旅行復活特別プロジェクト会議。
12月6日 第2回役員会。
12月13日~15日 JATA韓国研修「4人」。

12月15日 初心者向け苦情対応セミナー「岡山」[17人]。
12月15日 弁護士による苦情対応セミナー「岡山」[30人]。

12月21日 鳥取県地震支援セミナー「現地視察会(鳥取)」。

九州支部

1月6日 賀詞交換会。

沖縄支部

12月6日 ダムツーリズム体験会。
12月15日 幹事会、支部意見交換会。
12月16日 保険セミナー。

JTBパブリッシング ★

るるぶの旅行通販サイト

国内&海外の
素敵なお土産を
揃えました!!

ここが楽しい①
日本中の
名産品が買える!

思い出のあの場所の特産品が取り寄せOK!

るるぶショッピング

お買い物はこちら <http://shop.rurubu.com/>

ここが楽しい②
海外の人気
アイテムが買える!

旅行前にお土産を手配すれば観光の時間が増やせます

リニューアルオープンした「るるぶショッピング」。
国内・海外の定番&おすすめのお土産が気軽に買えます!
ご当地ならではのアイテムのヒミツや開発ストーリーなどもご紹介!!
見て、そして買って楽しめる通販サイトへぜひお越し下さい!

ここが楽しい③
スマートフォンでも
ショッピング!

お店で並ばなくても旅先でさっとスマホでお買い物!